

「JBAバスケットボールファミリー安心安全保護宣言」抜粋（2021年9月9日）

ユニセフ「子供の権利とスポーツの原則」に基づき、指導者そしてJBAとしての方向性の「JBAバスケットボールファミリー安心安全保護宣言」として明確にすることにより、子供たちが楽しく、安心して、安全にバスケットボールに打ち込めるよう、暴力や暴言、ハラスメントのない健全なバスケットボール環境を実現する。

- 1 【クリーンバスケット・クリーンザゲーム】 暴力暴言を根絶します。【暴力暴言根絶】
- 2 リスペクト・フェアプレーの精神を推進します。【リスペクト・フェアプレー精神】
- 3 子どもの意見・発言を尊重し主体性を育みます。【子どもの主体性尊重】
- 4 コーチライセンス制度を充実・普及させ、良い指導者を養成・配置します。【指導者の資質向上】
- 5 子どもの成長のために保護者と連携します。【保護者との連携】
- 6 子どもの安心安全なバスケット環境を整備します。【セーフガーディング】
- 7 年齢・性別・障がい・人種等で差別のないバスケットボールファミリーを目指します。【差別をなくす】

「クリーンバスケット、クリーン・ザ・ゲーム～暴力暴言根絶～」抜粋（2019年3月11日） ゲーム中のコーチによるプレーヤーへの暴言、暴力的行為に対する対応方針（ガイドライン）

JBAでは、インテグリティの精神（誠実さ、真摯さ、高潔さ）に則り、「クリーンバスケット、クリーン・ザ・ゲーム」を推進していきたいと考えています。

これは、ゲームに関わるプレーヤー、コーチ、レフェリー全ての協力でゲームの価値を高めようとする取り組みであり、ゲームを尊重する精神「リスペクト・フォー・ザ・ゲーム」にそったものでもあります。

バスケットボールのゲームは、ゲームに関わる関係者のみならず、観客の存在も欠かすことができません。

プレーヤー、コーチ、レフェリー、観客も含めてゲームの価値を高める努力をすることが必要です。

そして、そのためにはコーチの振る舞い（行動や行為）も非常に重要になってきます。

コーチの振る舞いは、ゲームに関わる関係者（プレーヤー、レフェリー）に直接影響があるだけでなく、ゲームを観ている観客の方々にとっても大きな影響を与えます。

そこで、コーチの振る舞いについてある一定の基準を設けてテクニカルファウルの対象とし、ゲームの価値を下げない取り組みを推進することとしました。

【テクニカルファウルの対象となる振る舞い（行動・行為）】

1. コーチのプレーヤーに対する暴言
 - （1）人格、人権、存在を否定する言葉 〈具体例〉最低、クズ、きもい、邪魔、出ていけ、帰れ、死ぬ、てめえ、この野郎、貴様
 - （2）自尊心を傷つける、能力を否定する言葉 〈具体例〉役立たず、下手くそ、アホ、バカ
 - （3）身体的特徴をけなす言葉 〈具体例〉チビ、デブ
 - （4）恐怖感を与える言葉 〈具体例〉殴るぞ、しばくぞ、ぶっとばすぞ、帰りたいの？、試合出たくないの？
2. コーチの暴力的（攻撃的・虐待的含む）振る舞い（行動・行為）
 - （1）殴る・蹴るなどを連想させる行為
 - （2）プレーヤーと近接（顔の目の前、腕一本分より近い距離）して高圧的威圧的に指導する行為
 - （3）「おい！」「こら！」と大声でプレーヤーを高圧的威嚇的に指導する行為
 - （4）継続的、かつ、度を超えた大声でプレーヤーを指導する行為、いわゆる怒鳴りつける行為
 - （5）物に当たる、投げる、床を蹴るなどの行為
3. 第三者が不快と感じる振る舞い（行動・行為）
 - （1）不潔な服装、裸足やスリッパでの指導

テーブルオフィシャルズ（TO）への支援について

ミニバスケットボールは、テーブルオフィシャルズ（TO）が未熟な場合があり、ゲーム中の処置などにミスが起こることが考えられます。

しかし、ベンチや観衆はそれを非難することなく、同じミニバスケットボールをしている仲間として寛容に対処すべきだと考えます。

ご理解とご協力をお願い致します。しかし、テーブルオフィシャルズ（TO）は、その寛容に甘んじることなく、プレーヤーやベンチがその力を最大限に発揮できるよう、常に普段からの技術の向上に向けて努力すべきことは言うまでもありません。

保護者の応援について

保護者の方々の応援は、ミニバスケットボールの性格上、必要不可欠なものといえます。

「JBAバスケットボールファミリー安心安全保護宣言」「クリーンバスケット、クリーン・ザ・ゲーム～暴力暴言根絶～」

この2点の趣旨を十分にご理解いただき、選手と指導者と共に大会への参加をお願い致します。